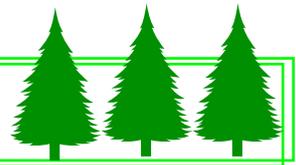


みつぎ便り



第198号 3月号 令和5年3月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



イヌツゲ

イヌツゲは見次公園の北階段左右の斜面に数本見られます。上の部分は剪定されていますが、イヌツゲは石灰岩地に自生するモチノキ科の常緑低木です。日本でもっとも緻密かつ重厚な木材であり、櫛、印鑑、ソロバンの球、将棋の駒、琵琶のばちなどに使われます。

雌雄同株で五月から六月頃に枝先や葉の付け根にクリーム色の小花を咲かせます。花には柄がなく、一つの雌花を複数の雄花が囲むように密集して開花します。昆虫には人気があり、蜜蜂が集まる蜜源となります。秋には果実を熟します。

幹は最大五十センチになり、樹齢を重ねると樹皮は不規則に割れて鱗状

の模様ができます。成長はかなり遅く幹の直径が十センチになるのに八十年近くかかるとされます。(重)

オオヒメヒラタアブ

かわいい花に手を伸ばしたときにアツ蜂とあわてて手を引っ込めた経験のある方も多いのではないのでしょうか。ミツバチによく似てはいますが針を持たないのがハナアブです。

ハナアブは牛など家畜の血を吸うアブとは別種の昆虫で、花に集まる虫の中でも最も種類が多いときれ、日本国内でも四百種は分布すると言われています。

写真のハナアブは、オオヒメヒラタアブです。体長八〜十三センチで三月〜十一月まで見られます。成虫は見事なホバリングで花へ訪れ蜜を食べますが、幼虫は植物上を移動してアブラムシなどを捕食します。

ところが同じハナアブの仲間で見てもミツバチによく似ているナミハナアブの幼虫などは、生活排水が流れ込む溝や家畜の排泄物の流れ込む水たまりといった環境で水中に溶け



ている植物質を食べて育ちます。アリストテレスが「ミツバチがどぶの汚水から生まれる」としているのはこれと見誤ったからではないかと言われています。

アブもハナアブも古来より日本人の近くに見られた虫で、春の季語とされています。アブは江戸時代から現在まで多くの俳人に詠まれていきます。(薫)

静けさや 花の昼間に 虻の声

堀麦水